

平成23年度当初予算について

◎ 予算編成の基本的な考え方

平成23年度当初予算編成に当たっては、法人移行後初の予算編成となるが、中期計画期間内の経常収支の黒字化を確実にするため、平成22年度の実績を十分に分析したうえで、的確な予測に努め、平成23年度計画において黒字化を実現するように、収入の確保、費用の削減等に努めた。

一方、新規需要に柔軟に対応することは法人化のメリットの一つであることから、その医療ニーズを踏まえ、効果的、効率的な編成を行った。

1 予算規模（消費税抜き）

	H23 年度当初予算	H22 年度当初予算	【H23 中期計画】
総収入	203 億 69 百万円	191 億 44 百万円	198 億 49 百万円
総費用	202 億 65 百万円	191 億 31 百万円	198 億 42 百万円
経常損益	5 億 63 百万円	61 百万円	4 億 14 百万円
純利益	1 億 4 百万円	13 百万円	7 百万円

2 業務量

入院患者数については、本年度予算と比べると、中央病院では、紹介患者の増加などに努めることから、新規入院患者数は、1千1百人増加して1万3千4百人になり、延べ入院患者数は、平均在院日数の短縮に努めることから、18万3千1百人になると見込まれる。北病院では、延べ入院患者数が増加し、6万5千6百人になると見込まれる。

また、外来患者数については、全体で1万5千3百人増加して、32万8千7百人になると見込んでいる。

	H23 当初予算	H22 当初予算
延べ入院患者数		
中央病院	183,100 人 (△14,300)	197,400 人
北病院	65,600 人 (+ 2,200)	63,400 人
計	248,700 人 (△12,100)	260,800 人
新規入院患者数		
中央病院	13,400 人 (+ 1,100)	12,300 人

延べ外来患者数		
中央病院	269,900 人 (+14,400)	255,500 人
北病院	58,800 人 (+ 900)	57,900 人
計	328,700 人 (+15,300)	313,400 人

3 予算等の主なポイント

○ 収入

① 医業収益

入院収益については、平成 22 年度実績見込みから推計した。中央病院で、平成 22 年 4 月の診療報酬改定に加え、7 月からの D P C の導入、7 対 1 看護体制の導入、平均在院日数の短縮化、さらに新規入院患者数の増加等により、1 人当たり平均入院単価が大幅に増加したことを反映し、全体で 9% 増 (9 億 61 百万円増) の 116 億 12 百万円と見込んだ。

＜中央病院 一人当たり入院単価＞

H21 決算 47,746 円 → H22 年 12 月累計 54,861 円

外来収入については、延べ外来患者数の増加を反映させ、全体で 6% 増 (2 億 65 百万円増) の 45 億 28 百万円を見込んだ。

② 運営費負担金

運営費負担金については、地方財政計画の単価を利用して算定しており、平成 17 年度借入の建物建設のための起債償還が新たに始まるのに伴い、償還金負担分が増加し、3% 増 (1 億 11 百万円増) の 33 億 88 百万円となる見込み。

運営費負担金の主な項目		
企業債償還元金	13 億 27 百万円	(1 億 52 百万円増)
企業債償還利息	3 億 81 百万円	(14 百万円減)
結核病院運営経費	91 百万円	(増減なし)
精神病院運営経費	4 億 4 百万円	(増減なし)
周産期医療経費	2 億 75 百万円	(51 百万円増)
救急医療経費	3 億 33 百万円	(81 百万円減)
高度医療経費	1 億 86 百万円	(10 百万円減)
小児医療経費	85 百万円	(3 百万円減)
医師確保・研究費等	3 億 6 百万円	(16 百万円増)
合 計	33 億 88 百万円	(1 億 11 百万円増)

○ 支出

③ 給与費

給与費については、10 月 1 日現在の現員数を基礎とし、中期計画に基づく増員分を加算し、前年度に比べ、52 百万円増の 84 億 43 百万円とした。

④ 材料費

材料費のうち、薬品費は、契約方法の見直し等による効果から、医業収入に対する材料費比率を縮減しており、薬品費及び診療材料費は、材料費比率を今年度と同じに押さえることとし、3億30百万円増の48億55百万円を見込んだ。

⑤ 経費

経費については、ガス、電気の契約単価の値上がりから光熱水費が増加し、また新規需要により委託料が増加することから、1億85百万円増の26億63百万円を見込んだ。

一方で、中央病院では、地下水を利用するシステムを構築中で、水道水に適した水が確保できれば、水道料は年間7百万円の経費削減になる。

新規需要経費として、中央病院の電子カルテシステムの更新及び北病院の電子カルテシステムの新規導入のため、コンサルタント料を計上した。

⑥ 臨時損失

機構の開始時に必要な退職給付引当金として引当てるべき額の不足額18億円のうち、3億65百万円（前年度に比べ3億55百万円増）を年度計画に基づき計上した。

○ 純利益

以上の結果、純利益は、中期計画（7百万円）を上回る1億4百万円となる見込み。

○ 資本支出

資本支出については、中期計画に従い、高額医療機器の更新等を行うため、中央病院では6億85百万円、北病院では62百万円を見込んだ。
また移行前地方債の元金償還金21億33百万円を計上した。

中央病院の主な高額医療機器

迅速検査システム（生化学・免疫）	1億86百万円
周産期集中監視システム	61百万円
脳神経外科手術用顕微鏡	46百万円

北病院の主な備品

緊急呼出しシステム	31百万円	他
-----------	-------	---

長期借入金未償還残高

H22年度末元金未償還残高	384億13百万円
H23年度元金償還額	21億33百万円
H23年度借入金額	6億99百万円
H23年度末元金未償還残高	369億79百万円